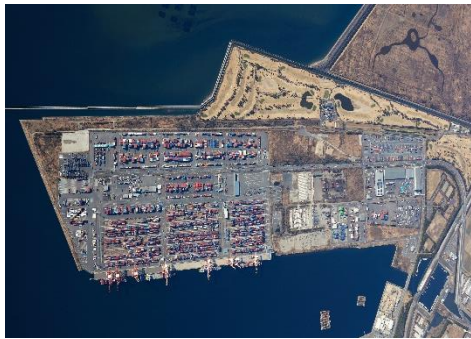


鍋田ふ頭

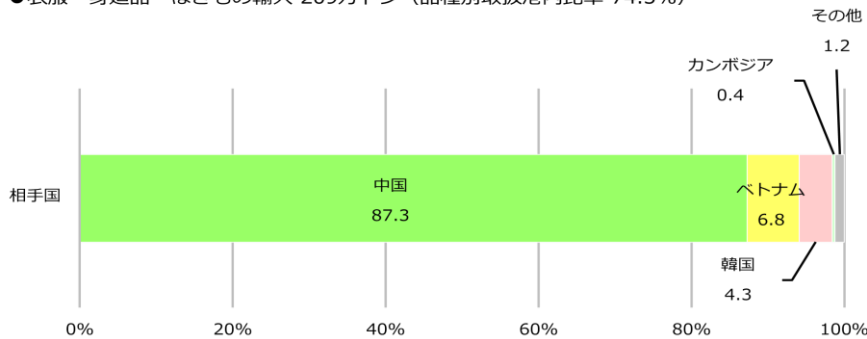


飛島ふ頭と並ぶ名古屋港の コンテナ物流拠点

中国・韓国からの輸入貨物が取扱の中心

鍋田ふ頭は、飛島ふ頭と並ぶコンテナ物流拠点で、3バースが供用しています。主に中国・韓国航路の船が寄港し、衣服・身廻品・はきものをはじめとする日用品の輸入を多く取り扱っています。

- 衣服・身廻品・はきもの輸入 209万トン（品別取扱港内比率 74.5%）



また、平成 22 年以降は、年間コンテナ取扱個数 100 万個（20 フィートコンテナ換算）を誇る国内有数のコンテナターミナルです。

平成 9 年供用の第 1 バース（T1）は財団法人名古屋港埠頭公社（現：名古屋港埠頭株）が整備し、平成 13 年供用の第 2 バース（T2）は、岸壁は国が、土地は港湾管理者が、背後施設は名古屋港埠頭公社が整備する、いわゆる“新方式”が採用され、どちらも港運 9 社の共同出資による名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社（NUCT）が運営しています。

平成 24 年 4 月に供用した第 3 バース（T3）は、国や港湾管理者が整備した岸壁と背後施設を一体的に貸し付ける“特定埠頭運営事業”を導入し、NUCT 社が運営事業の認定を受けたことから、第 1、第 2 バースと合わせて、同社による 3 バース一体の効率的な運営が実現しました。

また、名古屋港初となる 1 度に 2 個のコンテナを運ぶことが出来るガントリークレーンなども NUCT 社が自ら整備し、効率化を図っています。第 2 と第 3 バースの岸壁は、直下型地震にも耐えられる耐震強化岸壁として整備されているほか、RTG（ラバータイヤ式ガントリークレーン）の電動化など、災害時や環境にも配慮したターミナルとなっています。

また、令和元年度から遠隔操作 RTG の導入が進められており、これまでに T3 および T2 の一部で運用が開始されています。

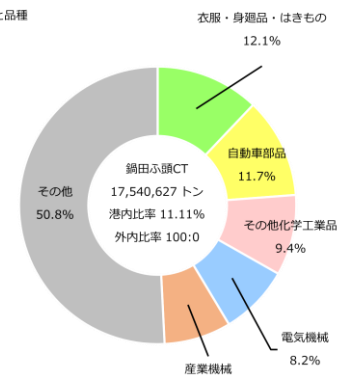
エリア基本データ

ふ頭名称	鍋田
旧名称	西 5 区
臨港地区面積	269.0ha
埋立完成時期	S60.1.22～H13.3.23
バース水深	12～14m

専用ターミナル（鍋田ふ頭CT）

係留隻数 2,446隻

取扱量と品種



T3 のガントリークレーン。20ft コンテナを 2 個同時に吊り上げることができる ツインスプレッダーや免震装置を採用している。



架線から給電を受けるバスバー方式の RTG

CT 運営者

名称	名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社 (NUCT)
出資会社	旭運輸(株)、伊勢湾海運(株)、(株)上組、東海協和(株)、日本通運(株)、(株)フジトランスコーポレーション、三井倉庫ホールディングス(株)、三菱倉庫(株)、名港海運(株)

鍋田ふ頭コンテナターミナル施設概要

	T1 岸壁	T2 岸壁 耐震強化	T3 岸壁 耐震強化
供用開始時期	平成 9 年 4 月	平成 13 年 4 月	平成 24 年 4 月
総面積	549,686 m ²		
岸壁			
延長	350m	350m	285m
水深	14m	14m	12m
コンテナヤード			
蔵置能力	6,768GS		
ガントリークレーン			
基数	3 基	3 基(耐震)	2 基(免震)
到達距離	17 列・6 段	18 列・6 段	17 列・6 段
最大巻揚荷重	57.9t	58.4t×2、58.6t	70.5t
アウトリーチ	48.5m×3	50.0m×3	48.5m×2
形式	ロープトロリー式橋型	ロープトロリー式橋型×2 セミロープトロリー式橋型	セミロープトロリー式橋型 ツインスプレッダー
トランスファークレーン：ラバータイヤ式ガントリークレーン (RTG)			
基数	遠隔操作 RTG：17 基 (給電/小型エンジン) 手動 RTG：17 基 (6 基：電池/給電, 11 基：給電/エンジン)		

広大なふ頭内には海に面したゴルフ場も

周囲はサイクリングロードとして整備

CT の西に広がるエリアには、平成 12 年にオープンした全 18 ホールの本格的ゴルフ場「ウッドフレンズ名古屋港ゴルフ倶楽部」があります。ゴルフ場の周囲はサイクリングロードとして整備され、水と緑が融和したレクリエーションの場が提供されています。

ウッドフレンズ名古屋港ゴルフ倶楽部

所在地：弥富市富浜 1-4

連絡先：0567-68-6651

